# 委員会視察記録

| | |
|---|---|
| 委員会名 | 文化観光委員会 |
| 期　間 | 令和７年７月 24 日～25 日 |
| 参加者 | 委 員 長　杉山　　淳<br>副委員長　杉本　好重　　副委員長　加畑　　毅<br>委　　員　鈴木　澄美　　委　　員　良知　淳行<br>委　　員　落合　慎悟　　委　　員　山田　　新<br>委　　員　阿部　卓也　　委　　員　桜井　勝郎 |
| 視察先 | １　駿河湾フェリー（静岡市清水区）<br>２　西浦の石造り建築のまちなみ（沼津市）<br>３　Ｆ３ＢＡＳＥ（沼津市）<br>４　新文化施設（旧ヴァンジ彫刻庭園美術館）（長泉町）<br>５　富士スピードウエイ（小山町）<br>６　富士スピードウエイホテル（小山町）<br>７　古径荘（富士市） |

# 視察の概要

7 月 24 日（木）

## ■　駿河湾フェリー

＜概要＞

収支について、令和４年度はコロナの影響で負担金･補助金が手厚く近年では唯一黒字になったが、令和６年度は 4400 万円の赤字であった。今年度はチャーター便の利用を促進し、収入の拡大を図りたい。オリジナル商品の開発や船の改修に伴い整備した貸切り特別室の利用促進を図っている。課題としては、来年度に減価償却が終わり残存価値がゼロになる船の今後についてや、移転した江尻埠頭の構内が狭く船の入出港が難しいこと、土肥港の強風波浪が原因で運航率が８割台にとどまることなどが挙げられる。土肥港からの二次交通の改善についてはＪＲ東海と相談しながら引き続き取り組んでいる。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　江尻埠頭での入出港における天候の影響は車載時も同様か。

Ａ　同様である。南風の影響がある。

## ■　西浦の石造り建築のまちなみ

＜概要＞

伊豆石は近世から近代にかけて日本の産業振興や景観形成に大きく貢献した建築資材である。伊豆石には２種類あり、硬質の安山岩系の石は江戸城の石垣などに用いられた。比較的加工のしやすい凝灰岩系の石は、蔵や倉庫等

の建築資材、温泉における浴槽などにコンクリートが普及するまで広く利活用された。伊豆石造りの蔵は全県下に分布しているが、沼津市域に293棟と最も多く、なかでも西浦地域に71棟現存し、さらにこの久連（くづら）集落には15棟が集中している。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　伊豆石建築物の現在の活用方法は。

Ａ　１例として、寿太郎ミカンの熟成用倉庫として使用されている。

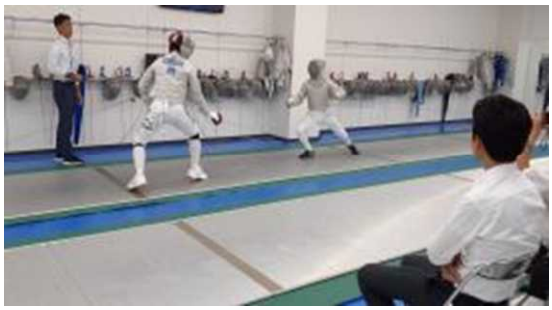
Ｑ　今度の展望は。

Ａ　国際地質科学連合のヘリテージ・ストーン認定に向けて審査中である。

■　Ｆ３ＢＡＳＥ

＜概要＞

フェンシングによるまちづくりは、東京2020オリンピックの事前合宿がきっかけであり、2019年２月に日本フェンシング協会と包括協定を締結した。



フェンシングのまち沼津推進協議会を設立し、企業・個人等会員を募り、フェンシングを通じたツーリズムの推進による観光交流人口拡大を目指して、拠点整備、普及活動、トップ選手の養成、大会・合宿誘致といった活動に取り組んでいる。

今後は、2028年のロサンゼルス五輪における金メダル選手の輩出とフェンシング拠点都市としての地位確立と定着を目指していく。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　フェンシングによるまちづくりの効果は。

Ａ　興行的に成功するというより、大会や合宿誘致による経済波及効果や沼津市民のシビックプライド醸成につながることが大きいと考える。

Ｑ　沼津市での競技人口は。また、指導者層の育成は。

Ａ　競技人口や関心をもつ人は増加しているが、受け皿と指導者層の少なさが課題。オリンピック出場者を市職員として採用し、育成と拠点づくりを主導してもらっている。

7月25日（金）

■　新文化施設（旧ヴァンジ彫刻庭園美術館）

＜概要＞

無償譲渡された当施設は、利活用計画に基づいたコンセッション方式による運営を目指している。運営事業者の公募開始は令和７年11月をめどに実施することとし、その間、民間事業者に施設を試行的に使用

させるトライアル・サウンディングを実施している。
　ショップ施設のうち本屋だった建物は日販等とも連携しながら活用方法を検討しているほか、レストラン施設も民間の方からの評価は高い。
　施設の維持については、つる性の植物がはうと手に負えなくなるので小まめに手を入れている状態である。
＜主な質疑応答＞
Ｑ　庭園の整備は。
Ａ　バラ好きな方や地域の方に清掃や剪定を手伝っていただいている。
Ｑ　見学希望者は。
Ａ　県担当課で受け付けている。見学希望の連絡は毎週ある。
Ｑ　駐車場確保の見込みは。
Ａ　イベント時はビュッフェ美術館所有の駐車場を借りており、県としての駐車場確保が課題である。

## ■　富士スピードウエイ

＜概要＞

　1966 年に開業し来年 60 周年を迎える。モータースポーツの聖地として歩んできたが、安全運転のための体験ができる施設でもある。世界各国から様々な人が訪問することからヘリポート等の整備も整っており、将来的には各種エアモビリティーの拠点としていく。最近の集客についてはホテルの整備が大きい。ハイアットの顧客ネットワークは集客力があり、富士山とサーキットの組合せは宿泊客の満足度も非常に高い。
＜主な質疑応答＞
Ｑ　どのようなレースが開催されるか。
Ａ　メーカーの壁にこだわらず、日本を代表するサーキットとして運営している。
Ｑ　現時点の課題は。
Ａ　人手不足、施設の老朽化、宿泊場所の不足の３点である。

## ■　富士スピードウエイホテル

＜概要＞

　モータリゼーションの発展のためにモータースポーツの普及・認知が必要と考え、その具体策としてヨーロッパのサーキットが必ずホテルと併設されていることに注目し建設が決まった。ハイアットとしても、富士山という場の力とモータースポーツの組み合わせは唯一無二をコンセプトとするアンバウンドコレクション by Hyatt との高い親和性があると認め、同ブランドとしては初の日本進出を決めた。集客については、約 3000 万人超のグローバル会員がおり、北米、欧州、アジア圏と偏りのない幅広い集

客が可能である。ハイアットの自社予約システム利用者が約６割と高いことから、収益力が高いこともハイアットの強みである。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　サーキット周辺の地域環境をどう考えているか。

Ａ　隣接地にホテルや飲食店が入る新施設を建設中で、ターゲット層の裾野を広げていく。

Ｑ　採算が合う稼働率は。

Ａ　65％。ただし、売り上げは様々な要因に左右されるため、稼働率だけでは議論できない。

Ｑ　県内のほかの地域へ進出する可能性は。

Ａ　観光地であれば伊豆などは考えられるのではないか。他にも新施設の開業等で事態は変化する。

## ■　古谿荘

＜概要＞

明治 39～42 年にかけて、宮内大臣田中光顕伯爵によって建てられたもので、日本の伝統建築と明治以来導入された西洋建築の融合による近代和風建築の最も代表的な建造物と言える。近代設備を先駆的に備えた価値が認められ国の重要文化財に指定されている。

建物は築 100 年を経過しシロアリ被害もひどいことから、令和３年より保存修理事業を行っている。令和６年３月に第１期工事が終了し、現在第２期工事に取り組み、令和 13 年度に終了の予定である。

総事業費は 19 億 9500 万円で、重要文化財の保存修理事業にあたっては、国が 65％負担し、残り 35％を所有者、静岡県、富士市の三者で按分して負担している。

＜主な質疑応答＞

Ｑ　元の状態への復元は可能か。

Ａ　シロアリに侵された柱等は新設するが、内装はできる限り再現に努めている。織機がないなど再現できないものも一部ある。

Ｑ　補助金を投入していることから工事終了後は広く公開する義務があるのではないか。

Ａ　未定であるが、所有者と相談しながら公開の方向で検討を進めていきたい。併せて有料とするかも検討していく。